

文 化 服 装 学 院
平成 27 年度 自己点検・評価
内部評価委員による報告書

平成 28 年 7 月 27 日

1 教育理念、人材育成像

● 1-1 学校の教育理念

- II 部の教育理念のあった方がよい。
- 世界レベルの専門教育の展開に於いて、語学力などの具体的なコミュニケーション能力を向上させる専門カリキュラムについての説明が欲しい。
- 「基礎学習」についての文章も必要ではないか。

● 1-2 課程及び関連科目の教育理念、人材育成像

1-2-1 服飾専門課程の教育理念、人材育成像

1-2-2 ファッション工科専門課程の教育理念、人材育成像

1-2-3 ファッション流通専門課程の教育理念、人材育成像

1-2-4 ファッション工芸専門課程の教育理念、人材育成像

1-2-5 II 部服飾専門課程の教育理念、人材育成像

1-2-6 関連科目の教育理念

- 各課程の教育理念が明確に示されている。
- 教育理念は毎年変わるものではないと考え、何か大きな社会的情勢変化がない限り、来年度以降もこの教育理念を維持する。

2 学校運営

● 2-1 法人組織 ／ 2-2 学校組織

- 教育機関として、安易な研究費削減については懸念する。
- 事務組織について、教員側の受け取りと差があるため、摺り合せが必要である。
- 組織の再構築について、数年前より指摘されている中、次年度への先延ばしが続いている。
- 計画的な実行性が見えてこない。

● 2-3 教員の組織 ／ 2-4 職員の組織

- 事務局の組織強化を図るために様々な取り組みを行っているが、その取り組みに対する点検・評価が記載されていない。
- 職業実践専門課程や魯美・文化国際服装学院への対応など事務局として取り組まなければならない業務は数多いと思うが、そういった業務についても取り組みと自己点検・評価を記載した方がよいのではないか。

- 事務局の組織強化及び効率化は毎年課題として挙がっている項目でもあるので、以前と比べた改善内容に関しても評価をするとわかり易い。

3 教育活動

● 3-1 学校のカリキュラム編成方針

3-1-1 文化服装学院のカリキュラム編成方針

- 学校としてのカリキュラム編成方針に関して、大きな問題はないと思われる。
- 教育の主幹となるカリキュラム編成方針のため、課題への取り組みと点検・評価をより明確にすることが自己点検・評価においては必要だ。

● 3-2 課程のカリキュラム編成方針、授業研究

3-2-1 服飾専門課程のカリキュラム編成方針、授業研究

- 各科の教育活動の方向性がきちんと明記されている。
- 教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されている。修業年限に対応した教育到達レベルが明確にされている。
- 関連分野の企業とコラボレーションを行うなど実践的な職業教育が実施されている。
- 課程のカリキュラム方針に合わせた内容が具体的となっている
- 技術指導に重きを置いていることがよくわかる。
- 企業との取り組みも多くあり、専門学校としての職業を意識した内容となっている。
- カリキュラムを見直して、コンテストの審査通過者が増え、結果に繋がっている。コラボレーションや、企業との取り組みも多くあり、専門学校としての職業を意識した内容となっており、さらにそれらの活動を通じて応用力の修得にも力を入れている。

3-2-2 ファッション工科専門課程のカリキュラム編成方針、授業研究

- 各科の取り組み、結果がしっかり明記されている。
- 特長的な科目が設置されており、服飾専門課程との差別化を意識した、各科の目的とカリキュラムが構築されている。
- 年々増加する留学生への対策がしっかり行われている。
- コラボレーションを強く意識している。
- インターンシップを積極的に取り入れ学外とのつながりを強化した、実践的な職業教育が実施されている。

- 教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されている。
- 修業年限に対応した教育到達レベルが明確にされている。

3-2-3 ファッション流通専門課程のカリキュラム編成方針、授業研究

- 各科、明確な問題点の洗い出しと課題が示されている。
- 示された課題に対しての取り組みがなされている。
- 即戦力となる人材育成を目指し、職業意識を高めるための企業研修やインターンシップに積極的な取り組んでおり良い。
- 2年次の各コースには、実践力を養う授業内容が取り入れられている。
- 職域に合った各コースの設置と特長あるカリキュラム構成が考えられている。
- 時代を意識し、変化に対応したカリキュラムとなっている。

3-2-4 ファッション工芸専門課程のカリキュラム編成方針、授業研究

- 企業との取り組みが盛んであり、学生の就職につながるカリキュラム編成がなされている。
- 各業界を意識した人材育成を目指し、カリキュラムを柔軟に見直すことによって、就職に良い結果が出ている。
- コラボレーションに積極的に取り組んでいる。
- ドロップアウトを抑える施策が今後は必要である。
- ファッションテキスタイル科には、もう少しインターンシップを取り入れると良い。
- シューズデザイン科は、企業と密接な関係が築かれていて良い。それが、就職にも反映されている。
- 産学コラボレーションの取り組みを授業や学生理解に繋げている。
- 技術とデザイン発想を意識した授業となっている。
- 実際の生産の現場を体験する機会もあり、就職にも繋がる取り組みがなされている。
- コラボレーションやインターンシップの取り組みが着実に就職に結びついている。

3-2-5 II 部服装科のカリキュラム編成方針、授業研究

- 教育理念に沿った編成・実施方針が策定されている。
- ファッション流通科は、II 部特有の、時間的制限に対する取り組みが不明瞭である。

● 3-3 教育・成績評価

- 科目間の評価基準を明確にしていくためにも、英字評価への統一が早急になされることが望まれる。
- 英字評価への統一ができなかった原因の究明が必要である。
- 新システムへの移行は大きな課題となるが、システムの仕組みや使用方法をふくめ、全学への周知活動をもっと具体的に行ったほうが良い。
- 課題となっているヒューマンエラーが改善された点は評価できる。

● 3-4 キャリア教育

- 効果測定とブラッシュアップを非常勤講師陣に一任しているため、所管部署(教務部・キャリア支援室)が全容を把握できていないことが大きな課題である。
- 学校として重点的に取り組んでいかなければならない課題であり、学校全体で内容の精査が改めて必要な課題ではないかと考える。
- キャリア教育といっても、モラル教育やマナー教育を中心とした人間教育から、就職活動に密接に関係してくる職業教育までその範囲は大変広く、どの部分にどのレベルで教育を行っていくのか、教育の達成評価はどうしていくのか、整備していかなければならない。
- 課題として、担当教員の内製化とあるが、そのためには専門性の高い科目のどの部分を内部教員が担当し、どの部分を外部講師に依頼するのかを明確にしていくことが必要だ。
- 文化服装学院の教育理念にも「専門教育と共に人間教育にも力を入れていく」と明記されているとおり、継続した取り組みが必要だ。

● 3-5 学外授業

3-5-1 学外実習の方針及びその状況

3-5-2 インターンシップの方針及びその状況

3-5-3 海外研修の方針及びその状況

3-5-4 コラボレーション

3-5-5 コンテスト活動

- コラボレーションやコンテストなど、しっかりとした取り組みのもと着実に成果に結びついていることは評価できる。
- インターンシップに関しては、その結果が直接就職に結びつく重要な学外研修の一つだが、参加学生と受け入れの人数がシュリンク傾向にあることは、大きな課題ではないか。
- 次年度の課題として「体験的学習のメリットを伝えることで参加学生の減少を抑

制する」とあるが、まずは学生が企業研修やインターンシップに参加したがいらない理由についてもう少し具体的に調査・分析を行い、その上で課題の抽出につなげた方が良いのではないか。

● 3-6 学校行事

3-6-1 行事の状況

- 学生が充実した学校生活を送る上で大変重要な項目であり、中でも文化祭は本学のもっとも大きな行事である。日程変更によって来場しやすい日程に改善された点は良い。
- 教員数及び学生数が減少している状況で、従来の内容をいつまで続けることができるか、検討を始めた方が良い時期ではないか。
- 文化祭以外の行事に関しても自己点検を行ったほうがよい。

4 学修成果

● 4-1 進路・就職状況

4-1-1 就職率・推移

- ここ 5 年間は就職率が年々向上してきており、成果が上がっている。
- 「現状認識浸透への取り組み」について、職員会議やファイルサーバーを使用した情報公開など取り組みはなされているが、結果の点検と評価をしっかりと行う事が望ましい。
- 進路・就職状況はキャリア支援と密接に関係しており、それぞれの項目をつなげて具体的かつ横断的な課題の抽出、取り組みを行っていくことが必要ではないか。

4-1-2 資格取得率・推移・対策

- 様々な方法で学生への周知活動を行っているが、それが受験者の増加につながっておらず、効果が上がっていない点が課題である。
- 受験者が増加しない原因の掘り起しをすることで、より具体的な課題の抽出、取り組みにつながるのではないか。
- 「キャリア支援室との連携による企業への働き掛けを行う事は、現状は難しい状況である。」とあるが、それはなぜなのか、具体的な課題の抽出を行ってほしい。

● 4-2 退学者への対策

- 学生数確保のためには、広報活動と共に退学者への対策が重要な課題である。
- 学校としても様々な取り組みを行っているが、退学の理由は学生により様々で、一概に退学者の引き留めを行うことは難しいのが現状ではないか。
- 昨年度の学校関係者委員からの評価にもある通り、退学理由の掘り起しがもう少し必要なのではないか。
- 実態の究明が進めば、それに対する取り組みもより詳細に行える。継続した取り組みにより 1 人でも退学者が減少していくことが学校として必要だ。

● 4-3 卒業生の状況

4-3-1 卒業生の活躍の状況

- ファッション業界で卒業生が広く活躍していることは非常に良い。
- 著名なデザイナーだけではなく、文化ファッションインキュベーション等に入居している若手デザイナーの状況も取り上げてほしい。
- すみれ会との連携は、もう少し強化すべきである。

5 学生支援

● 5-1 キャリア支援

5-1-1 求人の開拓

5-1-2 ハローワーク等公的支援機関との連携

- 学生未応募企業の掘り起こしや教員同伴による企業訪問、学内イベントを通じた企業との関係構築強化、そして企業懇談会の再開などキャリア支援室を中心に教職員が一体となって学生のキャリア支援・就職支援に取り組んでいる点は評価できる。
- 企業訪問は良い取り組みである。今後も積極的に行うべきだ。
- 懇談会は企業との情報交換や関係強化のため必要である。
- まだ受け身の取り組み内容である。自ら動き、新たな企業を開拓できていない。
- 学内に企業の方々を呼ぶだけで満足することなく、新規企業に対して積極的にアプローチしていく必要がある。
- 学内教員だけでなく、非常勤講師や特別講義講師にも協力を求めているかどうか。

● 5-2 学生相談体制

- 職員会議等において学生相談室、医務室の現状などの報告があると良い。

- 課題へのフィードバックがしっかりできており、キメの細かい対応が適切に行われている。相談室・教員・家族の連携ができています。
- 担任や保護者との連携を重視して、対応を考え、進められていて良い。
- 障害者差別解消法施行に対する情報周知を徹底させる必要がある。また、発達障害の具体的な行動など教職員は知っておくべきだ。

● 5-3 経済支援・健康管理

5-3-1 奨学金

5-3-2 学生寮

5-3-3 健康診断

- 奨学金返還延滞に対する更なる取り組みを求める。
- 問題、結果、今後の課題がわかりやすく簡潔にまとめられている。
- 入寮率を上げるために、寮費を下げたことは良い。
- 奨学金について、日本学生支援機構のことだけではなく、他の進学優秀者の奨学金などの取り組みはどうか。
- 健康診断時の外国語対応を考えた方が良い。

● 5-4 課外活動

5-4-1 学友会（在校生の会）

- 学友会組織や活動も、卒業生や業界など外部との関わりを広げた方が良い。
- I 部委員研修を学内で行うことを、試験的にではあるが決定できたことは良いことである。
- I 部・II 部合同イベントなど交流の場があって良いが、クラブ活動の場所確保を早急にすべきである。

● 5-5 卒業生・社会人への支援対策

5-5-1 再教育・相談

5-5-2 すみれ会（卒業生の会）

- 課題の抽出が甘く、取り組みにつながりが無い。
- 卒業生への告知が十分でない。コミュニケーションが取れていない。
- 会費の回収を最優先しているようだが、初コレクション・初展示会に補助金を出すなど、卒業生をサポートするような内容も検討するべきである。メリットを増やし、会員同士の交流を活発化させる施策が必要である。
- すみれ総会の見直しが必要である。

- 文化祭期間中に卒業生と在校生の交流の場を設けてもよいのではないかと。

6 教育環境

● 6-1 施設・設備

6-1-1 教室・講義室・実習室の整備・使用状況

6-1-2 教職員の研究室・事務室の整備・使用状況

- クラスの増加や大学の校舎移転のため、授業を行うための教室・講義室数が十分に確保できていない。
- 次年度にはグローバルビジネスデザイン科がさらに一学年増加することや、留学生が増加することなどを考えると、今後さらに教室・講義室が不足することが予測される。
- 他の部署とも協議しなければ解決できない問題だと思われる。
- 円滑な授業運営のため、早急に改善しなければならない課題である。

● 6-2 付属機関・施設

6-2-1 図書館

6-2-2 服飾博物館

6-2-3 ファッションリソースセンター

6-2-4 文化・服装形態機能研究所

6-2-5 国際ファッション産学推進機構

6-2-6 国際交流センター

6-2-7 IT戦略室

6-2-8 健康管理センター医務室

6-2-9 文化事業局

6-2-10 学生食堂

6-2-11 文化北竜館・文化軽井沢山荘

- 各部署ともしっかり改善のために取り組んでいる。
- IT戦略室では、校内無線アクセスポイントを増設したが、まだ不足しており学生の満足に至っていない。スマートフォンを授業情報収集や、学生への連絡などに活用している教員も多く、環境整備が求められている。
- 北竜館ではインターネット環境が不十分である。
- グローバル化に向けた対応がなされているが、語学の壁がある。学生、職員共に学園全体として学ぶ機会やカリキュラム、単位制を活用した授業の構築など更に細やかな取り組みの検討が必要である。

- 文化事業局：海外への商品販売を強化すべきである。
- 学生食堂：学校関係者評価でも指摘されているように、さらなる改善が必要かと思われる。接客サービスも見直してはどうか。席は増設されたが、混雑時の導線の改善や対応が必要である。メニューの配慮（宗教上の対応）も求められる。

● 6-3 機材・備品の管理状況

- 学生の学習環境改善が最優先である。
- 新システム稼働に備えた教室パソコンの入れ替えは良い取り組みである。
- 老朽化した備品の入れ替えは行われており、大半の設備・機材などが台帳により適切に管理されている。教育上の必要性に十分対応できるよう整備されている。

7 学生募集

● 7-1 学生募集広報

- 留学生の入学が学生数増加のためには重要なことであり、広報活動として海外のガイダンスにより多く参加したとあるが、インターネットのさらなる活用など、他の方法も検討することが必要である。
- 学生募集は学校の収益のみならず、教育活動の根底にかかわる重要な問題であり、結果に対する評価は必須であると考ええる。
- 公開授業やサマーセミナー、ファッションフェスティバルなどの各種広報イベントは高校生への主要広報活動であり、常に取り組むべき課題になるのではないかな。

8 財務

● 8-1 財務状況

- 財務状況が一向に改善されず、今年度も赤字決算となっている状況では、高い評価はできない。
- 学校としても収益の改善に向けて経費の削減を含め様々な取り組みを行っているようだが、根本的な問題として学生数の増加がなければ、本来の意味での収益改善は見込めない。早急に改善を行わなければならない課題である。
- 取り組みに対する評価がなく、現状をどのように認識しているのかが、わからない。

9 法令等の遵守

● 9-1 法令遵守の状況 / 9-2 諸規程の制定、学則、細則、内規等の整備 / 9-3 個人情報の保護 / 9-4 ハラスメント対策

- 適切に運営されていると思うが、課題の抽出が甘い。
- 個人情報の保護については、必要な措置が取られている。
- 教材費の取り扱いについて、今年度の経過を見て改善が求められる。
- ハラスメント対策：現状ではハラスメントについての相談はないが、学内職員が委員をしているため、申し出にくい環境ではある。
- 障害者差別解消法など新しい法律の周知について取り組む必要がある。
- 学校において最も発生しやすいであろう「アカデミックハラスメント」が委員会名に入っていないことに疑問を感じる。

10 社会貢献・地域貢献

● 10-1 社会貢献等の取り組み

10-1-1 活動への支援状況

10-1-2 公開講座・教育訓練等

- 適切と思われるが文化祭バザーの収益金による募金など、学生や学外に向けてもっとアピールをしてもよいのではないかな。
- 地域貢献は少し不十分だと思う。文化らしい取り組みができるはずである。
- 文化祭や学友会活動を通じて社会貢献が行われているが、学生個人のボランティア活動の奨励、支援については検討が必要と感じる。
- 学生数が右肩下がりになっているため、公開講座を受け持つ生涯学習課には今後は是非頑張って頂きたい部署である。しかしながら、もう少し努力する箇所が何点か見受けられる。SNS（Facebook や Instagram など）で外部に授業内容をもっと頻繁に発信してはどうか。また受講者の声を伝えるページがあっても良いのではないかな。

11 国際交流

● 11-1 留学生の受け入れ

11-1-1 留学生の受け入れ状況

● 11-2 国際交流の状況

11-2-1 合作校の状況

11-2-2 提携校の状況

- 留学生の日本語問題に関しては、中国語のできる教職員を配置するなどの対策をとっており、留学生の学習・生活環境の整備は行っていることは評価できる。しかしそのことが逆に留学生の日本語能力向上を妨げてしまう場合があり、対応が難しい。
- 留学生は魯美・文化国際服装学院や東華大学をはじめとした中国人だけではなく、他の国や地域からの留学生も増加しているはずだが、中国人留学生の対応に比べて、そちらにはあまり対策がとられていないように感じる。
- 益々増加することが予測される留学生の受け入れについては、本格的な取り組みが始まったばかりで、継続して整備していく課題が数多くある。

文化服装学院 平成 27 年度
自己点検・評価 内部評価委員による報告書

自己点検・評価委員会 内部評価会議

開催概要

平成 28 年 7 月 6 日（水）15：00～17：00

文化服装学院 B 館 4 階 B044 会議室

出席者（敬称略・順不同）

内部評価委員

相原 幸子、野中 慶子、辛島 敦子、平野 栄子、宮原 勝一、山田 とし子
横倉 孝、須藤 久栄、石崎 克典、吉野 真文

自己点検・評価委員

渡井 邦重、尾花 京子、山口 容子、
相澤 雅美

森 裕子、阿川 周子、小川 紘子

野原 美香、砂生 政信

菊池 明子、鈴木 教子

小林 克也、宇都宮 愛

オブザーバー

村田 達也、井守 あさみ、浜田 法子、古澤 直子

以上